

# 新 麻酔科ガイドブック —改訂第2版—



## ◆麻酔科学のちゃんとした教科書として最適な一冊

最近の医学生はちゃんとした麻酔科の教科書を購入せずに、チャー○麻酔科のような試験対策本で国家試験を乗り越えます。そして、医師になった初期研修医たちは、手術衣のポケットに入る麻酔マニュアル本だけを購入して、麻酔科ローテイト期間をやり過ごします。このような結果、ちゃんとした教科書を持っていない麻酔科後期研修医が少なくありません。彼らになぜ麻酔の教科書を購入しないのかと聞くと、日本にはいい教科書がない、ミラー麻酔科学の電子版をiPadに入れているので不自由しないといえます。しかし、麻酔科学全般に精通し、専門試験に合格するためには、通読できるちゃんとした麻酔科の教科書が必須です。

そこで、もしもまだあなたがそのような麻酔科の教科書を持っていないのなら、本書こそ最適の一冊です。

## ◆各領域の第一線で活躍している執筆陣

麻酔科の教科書は、①多くの大学に在籍しているその道の権威たちが分担執筆したもの、②単一大学のスタッフたちが分担執筆したもの、に大別できます。前者は、大冊になりやすく、網羅的かつ各項目の内容は高度ですが、通読しにくい欠点があります。後者は、記述に統一性があり通読しやすいものの、項目によっては学生への講義ノートレベルにとどまることがあります。本書は後者の教科書ですが、麻酔科専門医を目指す医師にこそ読んでもらいたい、充実した内容になりました。これは、本書がこれまで数多くの教授を輩出し、日本の麻酔科学に多大な貢献をしてきた群馬大学発の教科書だからです。本書は臨床麻酔、全身管理、術後疼痛管理、ペインクリニック、緩和医療と、各方面で現在活躍されている群馬大学の第一線の先生たちが執筆しています。このような執筆陣により、本書が一流の教科書になったのです。

- ・真興交易(株)医書出版部
- ・2013年7月25日 改訂第2版第1刷発行
- ・B5判/414頁/並製本
- ・定価(本体8,500円+税)
- ・ISBN 978-4-88003-875-9

## ◆さらなる学習にも最適な「ガイドブック」

本書の特徴は、学術的な記述と実践的な内容がうまく融合していることです。これは、監修された後藤文夫先生と、編集された齋藤繁先生に代表されるように、群馬大学麻酔科が伝統的に学術的な知見を基盤として、麻酔科学の実践を目標としてきたからだと思います。さらに、臨床麻酔、周術期の全身管理(循環管理、輸液管理他)、そして痛みの治療まで、麻酔科医が活躍する分野の解説本にもなっており、麻酔科に興味を持つ学生にも最適な一冊です。術前のチェック項目や具体的な薬剤の使用用量も一覧表になっていて、マニュアルとしても使用できます。

「ガイドブック」ですので、各項目で次に読むべき文献や教科書がレファレンスとして示されています。これらに導かれて、読者はさらに学習ができるはずです。このように、本書は学生から一般麻酔科医まで、麻酔科学を学ぶのに最適な一冊です。特に、麻酔科学が手術麻酔、周術期管理、そして痛み治療へと広がっている様子を生き生きと感ずることができの一冊です。一読を強くお勧めいたします。

川真田樹人

(信州大学医学部麻酔蘇生学講座)